

はくゆうちやわん ひ はかり て
白釉茶碗火計手

【所在地】 鹿児島県鹿児島市城山町4-36 鹿児島市立美術館
【種別】 県指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】 平成23年4月19日



この茶碗は、17世紀に堅野系の窯で焼かれたもので（制作者不明）、火計手ともいわれ白薩摩焼の初期のものと考えられている。

火計手は、渡来した朝鮮陶工が朝鮮から持ってきた材料（白土や釉薬）を用いて制作、焼成の「火」だけ、火ばかりが日本という意味から付けられた手法である。一般的に、薩摩焼の初期の作品であると言われている。

この茶碗は、てらいのないロクロ成形に、透明釉を掛け、微妙に青味がかっているところを見ると還元焼成（酸素を制御した焼き方）がかかった焼成かと思われる。戦火に遭い、破損、修復した部分もあるが、素材で白薩摩焼の原点をみるような茶碗である。